アタック打数の偏り具合がアタック決定率に及ぼす影響

－各ポジションに着目して－

鈴木　絢人　（愛知教育大学）

１．目的

バレーボールのゲームにおいてはスパイク決定力が勝敗に影響しているため（箕輪ほか、1990）、チームとしていかにしてアタック決定率を向上させるかが重要となる。本研究の目的は、バレーボールにおけるアタック打数の偏り具合がアタック決定率に及ぼす影響を明らかにすることである。

２．研究方法

１）対象は 2021 年度東海大学男女バレーボールリーグ戦春季男子２部リーグ戦全 28 試合（全 106 セット、アタック打数 5903 本）である。

２）調査方法は全ての試合における J-vims（技術統計システム）を基に、アタックデータをマクロのプログラムによって集計した。ここから WS、MB、OP の 3 つのポジションにおけるアタック打数の偏り具合とアタック決定率を算出した。アタック打数の偏り具合とは、各ポジションの打数の割合に対する標準偏差であり０から離れるほど打数が偏っている。

３）分析方法は、アタック打数の偏り具合とアタック決定率の相関分析である。

３．結果と考察

１）図１は全セットにおけるアタック打数の偏り具合とアタック決定率の関係を示している。全セットでは中程度の正の相関関係が認められた。よって東海大学男子２部リーグではアタック打数を偏らせることでアタック決定率を向上させている傾向にあることが明らかになった。

２）図２は負けセットにおけるアタック打数の偏り具合とアタック決定率の関係を示している。負けセットでは全セットよりも強い正の相関関係が認められ、打数を偏らせてアタック決定率を向上させる傾向がより強いと示された。

またこの結果からは、アタック打数を偏らせる戦術が負けに繋がっている可能性も伺える。よってセットを取得するために、攻撃に参加する全てのプレーヤーの決定力を向上させ、アタック打数を偏らせることに依存せずアタック決定率を向上させることが重要となるだろう。

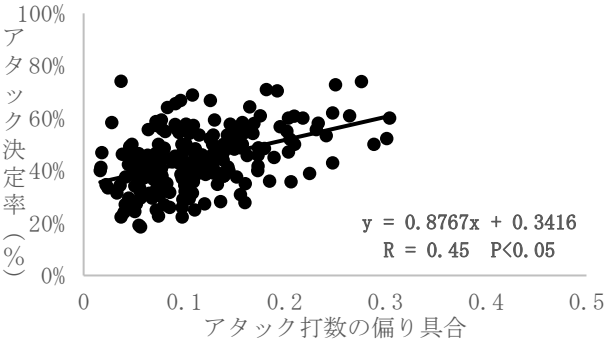

図１　偏り具合と決定率の関係（全セット）

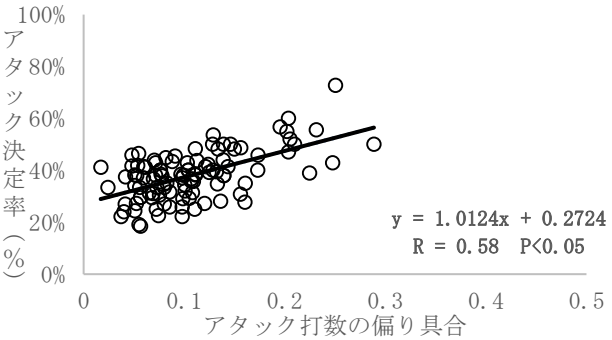

図２　偏り具合と決定率の関係（負けセット）

４．結論

本研究では、東海大学男子２部リーグにのセットにおいてアタック打数の偏り具合が高いほどアタック決定率が高くなる傾向にあることが示唆された。

５．主な参考文献

１）箕輪憲吾・吉田敏明（1999）バレーボールにおけるラリーポイント制のゲームの勝敗に関する研究, スポーツ方法学研究, 3, 1, p60.